

絆

K I Z U N A

2020 OCTOBER

JAグループ青森 月刊広報誌 [886号]

10





JA住宅ローン

JAバンク青森

コロナに
負けるな!

県産品応援 キャンペーン

期間

2020年10月1日(木)～2021年3月31日(水)

期間中に住宅ローンをお借入れいただいたお客さまに

5,000円相当の
県産農産物を
プレゼント!



※写真はイメージです。農産物の詳しい内容につきましては、お近くのJAにお問い合わせください。
※本キャンペーンは、上記期間中に対象商品を実行された方を対象といたします。

金利にお悩みの方、マイホームの購入を検討されている方はJAにご相談を！
詳しくは、お近くのJAバンク窓口へお問い合わせください。

JAバンク青森

農林中央金庫 青森支店
TEL 017-762-4402

JAバンク青森

検索

[JA 青 森]017-763-2013
[JA 津 軽 み ら い]0172-44-6082
[JA 十和田おいらせ]0176-23-0316
[JA 八 戸]0178-20-1391

[JA つがる弘前]0172-28-1121
[JA つがるにしかた]0173-23-5081
[JA ゆ う き 青 森]0175-72-1415

[JA 相 馬 村]0172-84-3215
[JA ごしょつがる]0173-27-3306
[JA お い ら せ]0176-54-2211



ネットワークでつなぐ確かな信頼・大きな絆

新型コロナウイルス感染拡大により、農業をはじめ幅広い分野・業種への影響が大きく先々が見通せない状況が続いております。また、本年は8月に入ってから青森市でも30度を超す真夏日が16日を数え、そのうえマスクを着用していることから、新型コロナ対策に加え熱中症対策もしなければならず、JAの皆様におかれましては、例年の夏と比べ厳しい環境の中で業務に取り組んでこられたことと推察いたします。

さて、当社はこれまで信用事業システム業務（JASTEMシステム）と総合ネットワーク事業業務を行ってきましたが、これに加え昨年10月（令和元年10月）に、青森県農協中央会より管理経済システム業務が移管されたことから、新たに管理経済部を設置して業務を開始しております。

これにより、JA業務に関連するシステムのほとんどを当社が管理・運営することになったため、JAの皆様との接点や関係がより一層深まることになりました。

令和2年4月からは、「JAグループ青森情報・電算構想実施基本計画書（第5次）」に基づき、各種システムの開発・改修や機器の更新が始まり、青森県農協中央会等と連携して取り組んでいるところであります。

システムやネットワーク技術は日に日に進化を遂げ、次々と新しいシステムやサービスが提供されていますが、JAの皆様がより効率的に業務を遂行できるよう、当社としても一丸となって頑張りたいと考えております。

最後に、新型コロナウイルスが一刻も早く収束することを願うとともに、今後も厳しい状況は続くと思われますが、当社のキャッチコピーである「ネットワークでつなぐ確かな信頼・大きな絆」のとおり、JAの皆様とは強固な信頼関係を築き、大きな絆で結びつくよう日々の業務に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

株式会社青森県農協電算センター

絆 10 目 次 C O N T E N T S

メッセージ	1	経営の窓口	16
特集	2	組織農政通信	18
フラッシュ	6	JA青森NEWS	19
インフォメーション	8	輝き	20
東北農政局通信あおり	13	自慢の逸品	20
実践農業者支援	14	みりよく発信	21

新型コロナウイルスに 負けるな！

第5弾

～積極的な宣伝活動で
消費拡大を～

J A全農あおもり

令和二年産米あおもり新米キャンペーンを開催中！



みんな待ち焦がれた
おいしい季節。

令和二年産米

あおもり新米
キャンペーン

つむぎのロマン

吉米の物語

あひろ

やっと新米ね！

早くごはん、つくってよー！

やったー！

食べてました！

キャンペーン期間 | 令和2年10/10(土) - 12/15(火) | 応募締切 12/15(火) ※当日消印有効

抽選で豪華商品が **合計1,000** 名様に当たる!!

A賞 Anker Nebula Capsule Pro
【Android搭載モバイルプロジェクター】



5名様
応募券 3枚

B賞 SHARP 【KI-JS70】
加湿空気清浄機



10名様
応募券 2枚

C賞 あおもり倉石牛
リブローズ【500g】



20名様
応募券 1枚

令和2年10月10日、2年産青天の霹靂の販売がスタートとなった。これを受け、JA全農あおもりと青森米本部は「令和二年産米あおもり新米キャンペーン」を実施する。期間は10月10日から12月15日（当日消印有効）まで。

応募シールがついている青森米「青天の霹靂」「つがるロマン」「まっしぐら」を購入し応募すると、抽選で素敵なプレゼントが1000名様に当たるもの。

シール3枚でお家時間を楽しくする「モバイルプロジェクター」、2枚でお家時間を快適にする「加湿空気清浄機」、1枚で「倉石牛」や「八戸サバ缶」を抽選で75名様にプレゼント。新型コロナウイルスの影響により、「お家時間」が増えていることから、新たな生活様式に見合った商品を選定した。

当たらなかった方の中から、抽選で925名様に、500円相当分の電子マネーギフトが当たる。

D賞 八戸サバ缶バー
【6缶入り】



40名様
応募券 1枚

たくさんのご応募
お待ちしております！

詳しくは、特設 WEB サイトへ

令和二年産米あおもり新米キャンペーン

検索

<https://r2-aomori-shinmai-cp.jp/>



特設ウェブ
サイトは
コチラから

牛乳ごっくんキャンペーン第3弾を開催中！



ＪＡ全農あおもりと青森県牛乳普及協会は10月1日から10月31日まで、抽選で素敵な賞品が当たる「牛乳ごっくんキャンペーン第3弾」を開催している。

青森県産牛乳1000mlパックについている三角マーク10枚を1口として応募すると、「あおり和牛」「青森米食べ比べセット」などの県産品が280名様に、Wチャンス賞としてはずれた方の中から50名様にオリジナルグッズが当たるもの。

次回の第4弾は、12月20日からを予定している。

たくさんのご応募
お待ちしております！



8月1日から31日まで実施した第2弾の抽選会を9月9日に開催しました！

合計1930通の応募の中から、当選者350人を決定しました。

たくさんのご応募
ありがとうございました！
第3弾以降も、
よろしくお願いします。



抽選会の様子

「あなたが選ぶ青森県産食材を使ったお料理レシピNo.1決定戦」を開催しました。



J A全農あおもりは9月7日、青森市の県農協会館で「あなたが選ぶ青森県産食材を使ったお料理レシピNo.1決定戦」のプレゼント抽選会を開いた。7月1日から8月31日まで全農あおもりホームページで展開したものの。

応募者235名の中から、当選者15名を決定した。当選者には、賞品のあおもり黒毛和牛を贈った。

1番作ってみたいレシピの第1位に輝いたのは「県産牛肉のしぐれ煮」。応募した消費者からは「簡単に作れる」「ごはんに合う」などのコメントが寄せられた。

新型コロナウイルス感染症に伴う「巣ごもり需要」により自炊系サイトの検索数が増加傾向にある。これを受け、ホームページ上で公開しているレシピを活用し、キャンペーンを実施することで県産農畜産物の消費拡大を図ろうと始めた取り組み。



抽選する笹森俊充副本部長

★1番作ってみたい レシピランキング★



フラッシュ

JA青森



青森市立浪岡野沢小学校 社会科見学 (9/24)

青森市立浪岡野沢小学校の3年生13人が、JA青森あすなろグリーンセンターを訪れ、「桃太郎トマト」の選果の様子を見学した。社会科の教科書にも取り上げられている施設を見学することで、農業に対する学習の理解を深めた。生徒からは「トマトはどうして緑色のまま出荷されるのか知ることが出来た。今まで知らなかったことを知ることが出来たので、とてもいい見学になった」と話した。



JAつがるにしきた

農作業を体験 無料職業紹介所 (9/15)

JAつがるにしきた農作業従事者無料職業紹介所は、リンゴ園での農作業体験会を開き6人が参加した。

農業に携わったことのない求職者や農業に関心のある人に対し、農業への理解を深めてもらい、農家の人手不足解消に繋げることが狙い。参加者は「どのくらい取っても良いのか判断が難しい」と話しながらも、初めての葉取り作業を楽しんでいた。体験後には5人が求職登録した。

JAごしょつがる



法人会設立へ 地元農業法人と共に発展目指す (9/2)

JAごしょつがるは、管内の農業法人で構成する「担い手法人会」設立のための総会を同JA本店で行った。

法人で構成する部会の設立は県内JAでは初めてとなる。

農業法人との連携について、斉藤勝徳代表理事組合長は「法人会との連携を密にし、地域農業の発展につなげていきたい」と語った。



JAつがる弘前

10月1日は「ひろさきふじの日」

生産者の生産意欲を高めたリンゴ (9/9)

「ひろさきふじ」は、リンゴの晩生種「ふじ」よりも1カ月程早く熟す着色系枝変りの品種で、1996年10月1日に東京の大田市場へ初めて上場し高値で取引された。JAつがる弘前の「ひろさきふじの会」は、10月1日を「ひろさきふじの日」と制定。一般社団法人日本記念日協会に登録申請し、2007年に認定された。

今年産「ひろさきふじ」は10月3日、東京・大阪での初売りを皮切りに全国の消費者に届けられる。

農家の仕事に理解を深める (9/24)

JA相馬村ではJA事業総合体験研修としてJA共済連青森の職員4名を受け入れ、りんごの葉取作業やJA直売所「林檎の森」での業務を体験した。今年度東京から青森県に異動してきた職員は、「葉取作業は初めて行ったが、とても根気の必要な作業で、年間通して行う生産者さんを尊敬します。ハシゴも初体験で、園主の方に教えて頂き勉強になった」と述べた。



JA相馬村

JA津軽みらい



『青天ナビ』を活用し刈り取り適期確認（9／7）

中南地域「青天の霹靂」生産プロジェクトチームとJA津軽みらいは、平川市で「攻めの農林主産業」秋の農作業現地巡回を兼ねた県のブランド米「青天の霹靂」の刈り取り講習会を開き生産者40人が参加した。講師を務めた中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の八島敏行主幹は「田んぼ1枚ごとの収穫適期が分かるブランド米生産支援システム『青天ナビ』（リモートセンシング）を活用して、刈り作業を行ってほしい」と呼び掛けた。



JA十和田おいらせ

Webで販売要請 情報の受発信力を強化（9／3）

JA十和田おいらせはコロナ禍での新たな販売要請活動始めた。Web会議での販売要請は夏秋野菜の出荷最盛期を迎えた8月31日から3日間実施。対応した斗澤康広専務は「相手の反応をみながらの商談は安心感がある。消費動向に合わせた商品の提案もしていきたい」と意気込む。JAでは米、畜産の販売要請でもWebを活用していく。

JAゆうき青森



おいしいこかぶの秘密を調査

馬門小学校児童施設見学（9／3）

JAゆうき青森野辺地営農センターは野辺地町立馬門小学校3学年児童の施設見学の受入れを行い、同施設の役割と職員の仕事、葉つきこかぶについて説明をした。見学後は圃場でこかぶの収穫体験を行い、収穫したばかりのこかぶを試食。児童らは「給食でこかぶは食べたことがあったが、生では初めて食べた」「甘くて食感が良い」「手で皮がむけるほど柔らかくてジューシー」と生食のこかぶに感動していた。

初心者向け農業体験会を初企画
農作業お手伝いへのきっかけ作りに（9／15）
JAおいらせは、農作業に関心のある人を対象にした初心者向け農業体験会をJA単独で初めて開く。
農繁期の労働力確保と農業への理解を深めてもらうのがねらいで、農作業の基礎的な作業内容を実際に体験で学ぶ。今回はゴボウの収穫作業を行う。JAは参加者全員に昼食の弁当とお土産にJA特産野菜の詰め合わせ「もっこりセット」をプレゼントする予定。



JAおいらせ

農業融資専任担当者と資材渉外担当者が農家訪問（9／17）

JA八戸は経済部の資材渉外担当者と金融部の農業融資担当者による農家訪問を行っている。担い手訪問活動を実施している関係事業との事業間連携に、今年から取組んでおりJAで取り扱っている農業資金の提案をした。

下森裕美子農業融資専任は「事業間連携で情報・課題を共有し、担い手のニーズに応じていくかが大切。今後も農家の所得向上のため、出向く活動を強化していきたい」と話した。



JA八戸

JA直売所キャンペーン わくわくプレゼント

JA青森中央会は県内のJA直売所を訪れた買い物客に、抽選で県産牛などをプレゼントする「JA直売所キャンペーン」を9月1日から始めた。対象となる16の県内JA直売所において、1,000円以上購入した人に、専用応募はがきを進呈する。商品と当選者人数は、県産牛「倉牛牛しゃぶしゃぶ用」(400g) 5人、りんごジュース「希望の雫」(1ℓ×6本) 10人、県産リンゴ「サンふじ」(5kg) 10人、県産ナガイモ(5kg) 10人、県産ゴボウ(4kg) 10人、県産ニンニク(1kg) 25人、青天の霹靂(2kg) 80人、合計150人にプレゼントする。(キャンペーン期間は10月31日まで。)

同中央会農業支援課の担当者は「組合員や地域住民に広く接する場であるJA直売所において農業の大切さやJAの役割について情報発信



▲会計後、販売員から応募ハガキを受け取る女性客(1日、青森市で)

するとともに、地元のとれたての新鮮な農産物や生産者が作った加工品を知ってもらい、農業・JAの応援団になっていただければ」と話した。

9月1日、青森市のJA青森農産物直売所「あすなろ直売センター」を訪れた買い物客は「野菜だけではなく、お花もいっぱい品物が豊富なため、いつも利用している」と話した。

エルダーミセス部会研修会

青森県JA女性組織協議会は9月4日、青森市でエルダーミセス部員を対象とした研修会を開いた。県内4JAから43人が参加し、登山ガイドによる講演会とステンドグラス風砂絵の製作研修を通じて交流を深めた。

登山ガイドの米坂恵子さんが「お山のおもしろ話～山菜の美味しい食べ方～」をテーマに約2時間講演をした。米坂さんは自身が山に関係する仕事についた経緯や山の魅力を話し、ミズを中心に山菜を美味しく食べる調理方法や山菜の下処理方法を教えた。

ステンドグラス風砂絵の製作では、JA青森中央会の職員が講師を務め、きれいに仕上げるポイントなどを説明。参加者はチューリップやブドウなど4種類の下絵の中から好きな物を選び、砂絵用のり付シートにカーボン紙で絵を写し、カッターで切り込みを入れた。シールをはがして、色

の付いた砂を入れる作業では、講師からグラデーションのつけ方などを教わりながら、色鮮やかな作品を作り上げていった。参加者は「難



▲講師から砂絵の説明を受ける参加者ら(4日、青森市で)

しかったが、配色を考えるのが楽しかった」「うちの研修会でもやってみよう」と次の研修に向けた話をしながら交流も深めていた。

JAグループが県産品で学生を支援

JAグループ青森と青森県農協農政対策委員会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と長期化により、経済的影響を受けた一人暮らしの大学生・大学院生を支援するため、県産米つがるロマン(2kg)とリンゴジュース(1ℓ×2本)を贈る。

今回対象とする大学は、弘前大学、青森県立保健大学、青森公立大学の3校で、各校で学生・院生に周知していただき、申込者に10月上旬から下旬にかけて配布する。

行事(10/10～11/10)

10月

- 14日 JA常勤役員・幹部職員研修会(アップルパレス青森)
- 15～16日 内部監査士準備研修会パート2(教育研修所)
- 19日 青森公立大学大学生支援農産物贈呈式(青森公立大学)
- 20日 青森県立保健大学大学生支援農産物贈呈式(青森県立保健大学)
- 23日 定例理事会(県農協会館)
- 23日 県農協青年部協議会役員会(県農協会館)
- 24日 認証初級試験(県農協会館)
- 26日 職員合同採用試験(県農協会館)

11月

- 2日 女性リーダー育成研修会(教育研修所)
- 5日 ファシリテーションスキル養成研修会(教育研修所)
- 7日 認証中級試験(県農協会館)
- 10日 認証営農指導員準備研修会(教育研修所)

コロナに負けるな！ JA住宅ローン県産品応援キャンペーン

JAバンク青森では、2020年10月から『コロナに負けるな！JA住宅ローン県産品応援キャンペーン』を実施する。

このキャンペーンは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、消費減退などの影響を受けている県産農畜産物の消費を応援するため、JA住宅ローン利用者に対して5,000円相当の農畜産物をプレゼントするもの。

新築や中古物件購入のための住宅ローン借入に加え、他金融機関からJA住宅ローンへの借換も対象になる。

キャンペーンの詳細や各JAが取扱う住宅ローン商品に関するお問合せは、最寄りのJA窓口またはJA渉外担当者まで。

◆ キャンペーン期間

2020年10月1日(木)～2021年3月31日(水)

◆ 対象者

期間中にJA住宅ローンをご成約いただいた方



農林総合研究所・りんご研究所の「参観デー」にJAバンク青森のPRブース出展

農林中央金庫青森支店は、9月3、4日に黒石市のりんご研究所で、同月4、5日に同市の農林総合研究所で開催された「参観デー」に、各会場近隣のJAと合同で、JAバンク青森の農業資金をPRするブースを出展した。

「参観デー」は、毎年9月頃に開催されているが、JAバンク青森がPRブースを出展するのは今回が初めて。

新型コロナウイルスの影響があったものの、当ブースには2会場合わせて400人を超える来場者が訪れ、農業資金に関するアンケートを記入し、条件によっては当初5年間の金利負担が0円にな

る農業近代化資金をはじめ、各種農業資金の説明に耳を傾けていた。

また、当ブースでは、農業者向け輸出支援サービス等に関するPRも行った。



▲説明を受ける来場者（農林総合研究所にて）

行事 (10/10～11/10)

農林中央金庫

10月

- 12日 統一事務手続研修＜貯金編＞（県農協会館）
- 13日 第二種証券外務員試験・内部管理責任者資格試験（県農協会館）
- 15～16日 JAバンク青森アカデミー第5期「管理職コース」第1部（ラ・プラス青い森）
- 16日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（ホテルサンルート五所川原）
- 25日 銀行業務検定試験（各会場）

11月

- 4日 金融機能不正利用防止および相談・苦情等対応体制整備研修（県農協会館）
- 6日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
- 9～10日 JAバンク青森アカデミー第5期「管理職コース」第2部（ラ・プラス青い森）

農協電算センター

10月

- 23日 定時取締役会（県農協会館）

早・中生種りんご販売検討会

JA全農あおもりは8月28日、弘前市のJAアオレンで、「令和2年産早・中生種りんご販売検討会」を開き、JA担当者ら12名が出席。出荷目標について提示するとともに、目標達成に向けた対策を協議した。

2年産早・中生種の出荷目標について、つがるは110万箱（前年比101%）、早生ふじは100万箱（前年比104%）、トキは36万箱（前年比88%）と設定したことを報告。

目標達成に向けて、①黒星病防除や樹上選果・摘葉など適正管理の徹底②適期収穫期間の設定およびCMによる啓蒙③計画出荷の徹底による安定販売と円滑な産地リレーの実践—などに力を入れることを確認した。

全農あおもりりんご部の坂本浩部長は「本年産のりんごは、春先の降霜などの被害が散見されたものの、その後の好天に恵まれ、果実肥大は概ね平年を上回っている。今後、高温によるヤケ・着色遅延等、品質管理には苦労すると思われるものの、適期収穫を実践し、鮮度を重視した出荷に努めてまいりたい」と話した。その上で「諸対策を講じ、有利販売に努めていきたい」と協力を求めた。



▲本年産の対策について協議

JA米穀担当部課長および担当者合同会議

JA全農あおもりは、8月31日、青森市の県農協会館で「JA米穀担当部課長および担当者合同会議」を開き、令和2年産米の集荷目標数量を2058千俵（1俵60^{kg}）とした。元年産集荷実績対比94千俵の増となる。

集荷対策として、生産者手取りの安定化を図るため「青天の霹靂」をはじめとする買取販売の継続や、全農一貫パレチゼーションおよび全農統一フレコンを推進し物流改善に取り組む。さらに、既存契約者の集荷積上げとJA未・低利用生産者への推進巡回を行い、集荷確保に努めていく。

全農あおもり米穀部の成田具洋部長は「コロナ

禍等の影響により全国の米の在庫量はさらに増えることが想定され、米価は下げ基調になっている。全農は長期販売を視野に入れた対策を検討しているが、今後は作付けの抑制も必要になってくる」としながらも、「2年産は需要の多いまっしぐらに品種転換され、需要に応じた作付けがされた。JAと協調しながら販売環境の変化に強い青森米として販売を展開し、生産者手取りに反映させていきたい」と協力を呼びかけた。

また、7月に開催した「第5回青森県JA農産物検査員鑑定競技大会（団体の部）」の結果を発表し、第1位のJA八戸には賞状と記念の盾を授与した。



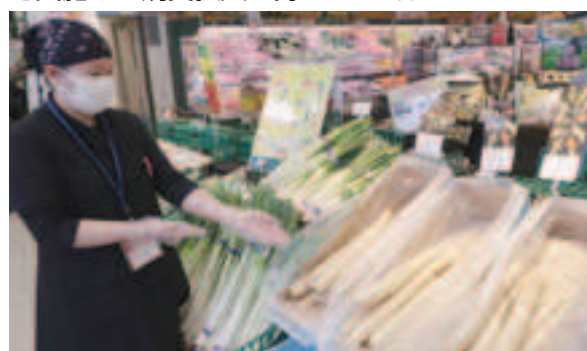
▲本年産の対策について協議

『やさいの日』JAフェア

JA全農あおもりは8月30、31日の2日間、県内のスーパーマーケット「カブセンター」「ベニーマート」など計11店舗で、やさいの日に係わる販促イベント「『やさいの日』JAフェア」を開いた。

店頭では、のぼりやポスター、パネルを掲示したほか、買い物に訪れたお客様にながいも、にんにく、トマト、ピーマンなどの県産やさいを紹介しながら販売し、魅力をアピールした。店頭の販売員は「どのやさいも好調な売れ行きとなっている。中でもながいもが人気」と話していた。

全農あおもりでは、継続して県産やさいのPRを実施し、消費拡大に努めていく。



▲売り場で県産やさいをPRする

青森県にんにく共進会

J A全農あおもりは9月3日、六戸町の青森県産業技術センター野菜研究所で「令和2年度青森県にんにく共進会」を開いた。最優秀賞に馬場恵美さん（J Aおいらせ）、優秀賞に久田稔さん（同）がそれぞれ選ばれた。馬場さんには農林水産大臣賞、久田さんには県知事賞が授与される。

日本一のにんにく産地の維持・拡大に向けて、栽培技術のレベルアップと高品質安定生産の推進を目的として毎年行っているもの。

県内9 J Aから104点が出品され、全体の大小や形状、乾燥や表皮の状態などを競った。

表彰式は3年1月に行われる。最優秀賞、優秀賞以外の入賞者は次の通り（かっこ内はJ A名）

◇優良賞▽小笠原勢一（十和田おいらせ）▽菅野悟志（十和田おいらせ）▽一戸茂（おいらせ）▽長根一男（おいらせ）▽金澤幹雄（八戸）



▲審査する関係者ら

やさい防除試験展示ほ現地検討会

J A全農あおもりは9月7、11日の2日間、J A十和田おいらせおよびJ Aごしょつがる管内ほ場でやさい防除試験展示ほ現地検討会を開き、J A担当者ら18名が出席した。

今回の検討会は、県下J A域を超えた病害虫防除に係る情報の共有や現場で迅速な対応ができる営農指導員の育成を目的として開催。農業の基礎知識や基本的な防除の考え方などについての研修を行ったほか、J A版防除暦を活用した指導方法の習得を図った。

全農あおもり担当者は「J A版防除暦の策定と



▲指導方法について学ぶ出席者

試験展示ほの設置は、本年度から初めて実施した取り組み。本年の防除暦は、ながいも・ねぎ・トマトの3品目のみだが、今後はこの3品目の防除体系を精査しながら、他品目の防除暦策定も検討するなど、県下J A全体の防除指導体制の強化に向けて取り組みたい」と話す。

今後も試験展示ほの管理運営を行い、新剤の防除効果と防除体系の検討を行いながら、やさい防除指導体制の強化に向けて取り組むこととしている。

イトーヨーカドー「青森県フェア」

（株）イトーヨーカ堂は9月9日から13日の5日間、「青森県フェア」を開いた。J A全農あおもりは産地代表として参加した。

この催事は、ふるさと産品消費県民運動を推進している青森県がイトーヨーカ堂との共催により、安全・安心な県産農林水産物とその加工品に関する情報を発信し、地産地消の推進と県産品の販売拡大をしていくことが目的。

12日のPRセレモニーでは三村申吾青森県知事ほか関係者らが県産品のPRや県産野菜を用いたお弁当紹介、健康づくりのPR等を行った。

全農あおもりやさい部の平山智樹部長は「今年は新型コロナウイルスや猛暑により大変であったが、皆様に新鮮でおいしい県産品を届けられることが出来た。これから出来秋を迎え、秋野菜を始めお米・りんご・果実とこれから旬の食材が出るので、それをまたお届けしたいと考えている」と紹介した。

PRセレモニーのほかに、イトーヨーカ堂と産地との情報交換会、店内売場巡回によるPR等も行われた。



県産品をPRする平山部長

行事（10/10～11/10）

10月

- 19～20日 令和2年度危険物取扱者乙種4類講習会（秋期）（県総合社会教育センター）
- 23日 運営委員会（県農協会館）

JA共済きずなの青い森プロジェクト

JA共済連青森は、9月12日（土）、「JA共済きずなの青い森（平内町山村開発センター）」を開催し、平内町立小湊小学校の児童と、その保護者および教員の24名を招待した。本プロジェクトは、森が地域や農業にもたらす恩恵や役割の理解を深めてもらうとともに、参加者どうしのきずなを深めることを目的に、JA共済ビジネスサポート（株）と森林組合あおもりの協力のもと、平成29年度より実施している。

今回は雨のため、プログラムを一部変更して、地元平内のホタテラインを車窓見学した後、スギ材を使用したプランター・椅子づくりに挑戦した。

また、平内町消防署の協力を得て、ジェットシューターや水消火器を使った消火疑似体験を行い、消火活動の大変さを学んだ後、青森県生活協同組合連合会「食品の安全推進委員会」の協力のもと、県産のブランド米や肉・野菜等の食に関するゲームを行うとともに、食品ロスに関する問題を一緒に考えた。



▲参加者の皆さん



▲木工クラフトを体験する参加者



▲食に関するゲームを出題する青森県生活協同組合連合会の皆さん



▲消火活動を体験する参加者



JA共済交通安全フェスティバル

JA共済連青森は、青森県警察本部と（一財）青森県交通安全協会と連携して、9月21日「道の駅とわだ」とわだびあ」（十和田市）、22日「道の駅なみ



▲白バイの前で記念写真を撮影する来場者

おか アップルヒル」（青森市）で、地域住民の交通事故の未然防止を呼びかけることを目的とした「JA共済交通安全フェスティバル」を開催した。

会場では、両日合わせて2,000名の来場者に反射材などを配布し、交通安全の未然防止を呼びかけるとともに、パトカーおよび白バイの展示を行い、多くの方々が記念撮影を行うなど大いに盛り上がった。



▲反射材などの配布風景

行事（10/10～11/10）

10月

- 14日 JA共済健やか隊員育成研修（ホテル青森）
- 15日 JA自動車契約担当審査員有資格者研修会（県農協会館）
- 21日 書道・交通安全ポスターコンクール表彰式（アップルパレス青森）
- 23日 運営委員会（県農協会館）
- 28～30日 QOL健診

11月

- 5日 生命共済JA審査員有資格者研修会（県農協会館）
- 6日 共済事業担当常勤理事会議（ホテル青森）

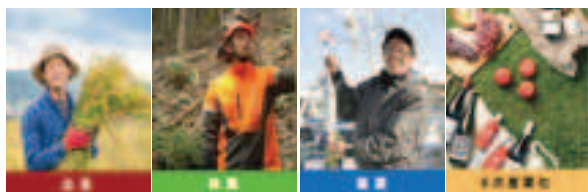
農林水産省HPのポイント、 便利な使い方紹介します

その1

あふてらす

農林漁業はじめるサイト

このサイトでは、農林漁業に関する全国各地の求人情報や就業支援フェア等の開催情報、就業支援制度などを、ワンストップで見つけることができます。



その2

新型コロナ支援対策

農業者、畜産事業者、林業事業者、漁業者、食品産業事業者等へ向けて、支援情報をはじめとする各種情報を提供しています。

食料供給情報

支援情報

国民の皆様へ

事業者の方へ

ガイドライン

相談窓口

その3

逆引き事典

逆引き事典は、利用者の求めているものからどの補助事業に該当するかを検索できる便利なツールです。分野や目的、条件を絞り込むことで、知りたい情報へ素早くアクセスできます。

- 1 農林水産省 逆引き事典 分野・目的を選択
- 2 条件を選択
- 3 検索
- 4 検索結果 5件
- 5 比較する
- 6 比較対象を選択

検索・比較結果の表示

農林水産省ホームページ ↓
<https://www.maff.go.jp/index.html>



**MAFF
アプリ**
Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries
農林水産省



～ スマートフォンはMAFFアプリで ～

ホーム 緊急情報 気象情報 新着記事 動画 カレンダー 閲覧数ランキング	情報 一覧(記事) Maff Media Maff Channel aff	お役立ち 経営改善 新規就農 スマート農業 G A P 気象・災害 安全対策 病虫害 農福連携 補助金 農泊 イベント 優良事例	マフスグ マフちよく アンケート テキスト・画像送信 まるみえアグリ アグミル アグリーチ アグリサーチャー 逆引き辞典 共通申請サービス	マイページ プロフィール変更 クリップ記事 検索 テキスト検索 絞込検索 お役立ち
---	--	---	---	--

実践 農業者支援

HACCPの義務化について

1. HACCP（ハサップ）とは

HACCP（ハサップ）とは、食品の安全を脅かすハザード（食中毒菌など健康被害を起こす原因）が混入するリスクを、作業工程を分析することで見つけ出し、そのリスクを工程管理によって除去または低減し、さらに衛生管理を改善し維持していくための手法である。このHACCPは、原材料の仕入れから保管・製造・加工等を経て出荷するまでの全ての工程が対象となる。

2. 経過

平成30年に食品衛生法などの一部を改正する法律が公布され、すべての食品等事業者を対象とした衛生管理の制度化が令和2年6月に施行されることになった。経過措置期間を経て、令和3年6月にHACCPの義務化（完全制度化）がスタートする。

3. 対象となる事業者

(1) HACCPの対象となる業者は、フードチェーンを構成する食品の製造・加工、調理、販売などの食品を扱うすべての業者である。そのため、食品の製造・加工・調理・販売等を行うすべての事業者は、HACCPに沿った衛生管理の実施が義務付けられ、マニュアル作りや衛生管理計画の作成と実施した記録等の普及への取組みを行う必要がある。

(2) 現在、食品衛生法では、営業するのに許可が必要な業種があるが、HACCPは食品衛生法において、許可が必要ないすべての業種も対象となる。

ただし、小規模な店舗等の負担軽減のため、事業形態や規模ごとに、「どこまで衛生管理に着手するか」ということを「基準A（HACCPに基づく衛生管理）」と「基準B（HACCPの考え方を取り入れた衛生管理）」に区分している。

4. HACCPの基準

HACCPの基準は、大きく2つあり、すべての食品等事業者はいずれかの基準を遵守する必要がある。

(1) 基準A（HACCPに基づく衛生管理）

従業員数や品質管理部門の有無など、一定の条件を有する食品関連事業者が対象となる。

具体的目安としてはアルバイトやパートタイマーを含む従業員数が50名以上の企業、団体とされている。

(2) 基準B（HACCPの考え方を取り入れた衛生管理）

従業員数50名未満の小規模事業者、店舗での小売販売のみを目的とした製造・加工・調理事業者、提供する食品の種類が多く、変更頻度が頻繁な業種、一般衛生管理の対応で管理が可能な業種。具体的には、一つの事業所において従業員数が50名未満の企業、団体とされている。

* 農家が出荷前に行う「調整作業」は、対象外とされている。

5. HACCP義務化で実施すべき内容

(1) 概要

規模に関わらず食品関連事業者は、令和3年6月までにはHACCPの考え方に基づき、その制度を導入していかなければならない。

具体的には、義務化が開始するまでに、「コーデックス委員会の7原則12手順ガイドラインに従って食品を仕入れ、顧客に提供するまでの工程を監視・管理するシステム構築をすること」が必要である。

(2) 7原則12手順

7原則12手順とは、衛生管理のガイドラインであり、この手順に従っていれば食品衛生のレベルは保たれるというもの。

【7原則12手順の概要】

手順	実施概要
手順1	HACCP チームの編成
手順2	製品説明書の作成
手順3	意図する用途及び対象となる消費者の確認
手順4	製造工程一覧図の作成
手順5	製造工程一覧図の現場確認
手順6 (原則1)	危害要因分析の実施
手順7 (原則2)	重要管理点（CCP）の決定
手順8 (原則3)	管理基準（CL）の設定

手順	実施概要
手順9 (原則4)	モニタリング方法の設定
手順10 (原則5)	改善措置の設定
手順11 (原則6)	検証方法の設定
手順12 (原則7)	記録と保存方法の設定

(3) 基準A（HACCPに基づく衛生管理）の事業者が実施すべき内容

基準Aの事業者は、上記の手順全てを網羅する必要がある。

(4) 基準B（HACCPの考え方を取り入れた衛生管理）の事業者が実施すべき内容

基準Bの事業者は、これまでの「一般衛生管理」に加え、「工程管理（HACCP）」のうち「計画作成、管理・記録」などの一部のみが義務として課せられる。

*今回の食品衛生法の改定で義務化されるのは「認証の取得」ではなく、「制度の導入」であり、取組みを実施すれば、法律違反とはならない。

6. 罰則

改正食品衛生法では明確な罰則が規定されていない。しかし、都道府県にて定められる条例にて罰則が規定される可能性があること、また、HACCPの義務化に対応できているかどうかは、営業許可の取得や更新のときにもチェックされる可能性がある。

7. JAにおける事業別対象施設（例）

（中央会 農業対策部）

JA事業別HACCP対象、営業許可・届出対象についての整理

今後の対応として、まずはJAの施設においてHACCP対象となる業種があるか、営業許可・届出対象どちらになるのかを判断し、申請を行う必要がある。

直売事業	加工事業	福祉事業
HACCP対象・営業許可対象 - 食肉・鮮魚の販売 - 食品小分け業に該当する行為を行う場合 - 飲食店営業	HACCP対象・営業許可対象 漬物製造、惣菜・菓子等の食品加工	HACCP対象・営業届出対象 - 調理、食事提供 - 調理済み食品の受入・提供（温度管理不要な場合は届出対象外、衛生管理計画不要） →形態によって、整理が異なるため、留意が必要
HACCP対象・営業届出対象 - 野菜・果物等の農産物販売（届出営業者が何らかの加工・包装による販売を含む） - 仕入れ品の販売	食料事業 HACCP対象・営業届出対象 - 加工済み食料の仕分け・配送（温度管理が不要な場合は届出対象外、衛生管理計画不要）	その他 HACCP対象・営業届出対象 - イベントによる食事提供（茶としてみなされないものに関しては届出対象外） →食中毒等発生した際には責任を問われるため保険等の加入を推奨する。
HACCP対象外・営業届出対象外 - 精米販売 - インターネット販売	購買事業 HACCP対象・営業届出対象 - 生活資材（食品）の供給（温度管理が不要な場合は届出対象外、衛生管理計画不要）	HACCP対象外・営業届出対象外 JA内に設置されたコイン精米機
利用事業 HACCP対象・営業許可対象 - 共同利用加工施設における食品加工	冠婚葬祭事業 HACCP対象・営業許可対象 - 調理、食事提供（飲食店営業）	

8. 今後の進め方

(1) 自JAにおいて、HACCP 対象となる施設の洗い出しを行う。

①食品加工施設を所有している場合、「基準A」制度の導入が必要となる可能性がある。

②食品加工施設を所有していない場合、「基準B」の制度導入が必要となる。

(2) 必要な対策の実施

①「基準A」制度の導入が必要な場合、7原則12手順に従い、衛生管理を実施する必要がある。また、必要に応じて施設の改修についても検討する必要がある

②「基準B」制度の導入が必要な場合、「各業界団体が作成する手引書」を参考に衛生管理計画を策定し、衛生管理を実施する必要がある。（直売所における手引書については、既に各JAに送付済のため、参考にされたい）

③直売所においては、商品受入先である農家組合員が、自らの食品加工施設において加工した食品を出荷しているケースが想定され、JAとしても適切なアドバイスが必要となる。

(3)「基準B」制度が求める「一般的な衛生管理計画および実施記録の作成」の内容（例）

①商品の受入・陳列

②施設・設備・器具の衛生管理

③冷蔵庫・冷凍庫温度管理（商品ケース含む）

④従業員の服装・健康管理

⑤トイレ清掃

⑥手洗いの実施

⑦その他（防虫・防鼠）

経営の窓口

収益認識に関する会計基準適用によるＪＡへの影響について

１．はじめに

2018年３月、企業会計基準委員会は企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」を公表した。

当該基準は2021年４月１日以後開始する事業年度（令和３年度）の期首からＪＡにおいても適用とされる。

本号では、収益認識に関する会計基準がＪＡにどのように影響するのか、収益認識の論点（ポイント）について掲載する。

２．ＪＡの各事業への影響

ＪＡは信用・共済・購買・販売・利用・保管等多くの事業を行っている。当該基準はＪＡが行っている全ての事業に影響を与えるものではなく、影響を与えるのは、購買・販売・利用等の経済事業と想定されている。信用・共済事業について当該基準の適用除外の「金融商品にかかる取引や保険契約」に該当するため、一部の手数料を除いて影響はほとんどないものと想定されている。

３．ＪＡの損益への影響

収益認識に関する会計基準が、ＪＡの会計にどのように影響があるか具体的に２つの事例を掲載する。

（１）損益計算書の表示の見直し

一つは、通常総代会資料の損益計算書の表示を、**売上高を総額で表示するか**（総額計上）、**売上高にかかる手数料のみを表示するか**（純額計上）という表示上の影響である。

例えば、ＪＡが組合員に対して飼料110千円を供給したとすると、今までは「購買品供給高110千円」と損益計算書に表示される。しかし、この飼料について、組合員は取扱っているメーカーに直接注文し、飼料もメーカーから組合員に直送されてＪＡは在庫リスクがなく、飼料価格についてもＪＡの決定権がない場合、ＪＡは本人による取引ではなくメーカーの代理人と認められる。この場合、手数料収入だけを計上することになる（＝購買品供給高を計上できない）。仮に手数料を３％とすると110千円×３％＝3.3千円を「購買手数料3.3千円」と損益計算書に表示される。このことによって、損益計算書の購買品供給高は減少する。しかし、購買事業総利益は「総額計上」「純額計上」でも同額となり、当該基準が適用されたとしても購買事業の総利益には影響がないことになる。

（表１）購買品供給高への影響例

	損益計算書の勘定科目	購買品供給高	事業総利益	事業総利益の算定方法
①総額計上（従来の収益認識例）	購買品供給高	110	3.3	110－106.7（供給原価）＝3.3
②純額計上（今後想定される収益認識例）	購買手数料	計上無し	3.3	110×３％＝3.3

（２）収益の認識の修正

二つ目は、組合員の資材等購買品取扱高に応じて支払う奨励金がある場合、これは当該基準では、**売上（収益）の戻し**に該当するため、購買品供給高を修正しなければならず、購買品供給高が減少するといった損益への影響である。

当該基準では、奨励金等の収益の戻しや返品等がある場合、資材等商品を供給した時点で全額収益（購買品供給高）にするのではなく、取扱高に応じた奨励率や返品率を想定して収益を減額調整する必要があることとなる。（※資材等供給の都度減額修正するのは現実的ではないため、年度末に奨励率や返品率等を用いて算出した金額を購買品供給高から減額修正する処理が想定されている。）

したがって、購買品供給高の減少により、**当該基準適用初年度目は**、事業総利益が減少することが想定されている。（※なお、各ＪＡの奨励基準や返品率等によって、減額修正する金額は異なるので、担当会計監査人との事前調整が必要となる。）

【取引事例】

例えば、３月決算ＪＡで４月から１２月の取扱高に応じて、翌年の２月に奨励金を支払う場合は、当該年度で売上の戻しが完結しているので決算修正処理は必要とならない。

一方、１月から１２月の取扱高に応じて、翌年の２月に奨励金を支払っている場合、令和４年１月から３月の取扱高にかかる翌年２月に支払われる奨励金相当額は、令和３年度の供給高の減少と認識し修正が必要となる。

具体例として、令和４年の１月から１２月までの購買品取扱高３,０００千円に対し、１０％の奨励金を支払う場合、令和４年の１月から３月までの購買品供給高１,０００千円とすると、当該供給高の１０％の１００千円を購買品供給高から減額修正することである。（経理例は表２のとおり）

（表２）収益認識（奨励措置がある場合）の影響例

	従来の収益認識		今後想定される経理	
	（借方） 購買未収金	（貸方） 購買品供給高	（借方）購買未収金	（貸方）購買品供給高 購買負債（未払費用） ※当面は従来どおり
①供給時の経理処理例				
②令和３年度末で想定される経理処理例	仕訳無し		（借方）購買品供給高 補正額 100	（貸方）購買負債（未 払費用）100
③令和４年度期首で想定される経理処理例	仕訳無し		（借方）購買負債（未 払費用）100	（貸方）購買品供給高 補正額 100
⑤令和４年度末で想定される経理処理例	仕訳無し		（借方）購買品供給高 補正額 105	（貸方）購買負債（未 払費用）105

令和３年度は、このように１,０００千円の購買品供給高を９００千円（購買品供給高１,０００千円－購買品供給高補正額１００千円＝９００千円）に修正し、損益計算書上表示することとなる。

令和４年度以降も、每期継続して同様の経理処理を行い、４年度の購買品供給高補正額（例えば１０５千円）と３年度の購買品供給高補正額（１００千円）との差額分（１０５千円－１００千円＝５千円）が購買品供給高に与える影響額となる。

４．おわりに

当該基準は、令和３年度期首からの適用であるが、未確定部分の要素が多い。そのため本会としては、研修会や会議等を通じて適時情報を提供するほか、各ＪＡに出向き収益認識に関する現状を把握し、課題・問題点を整理し、支援することとしている。

（中央会 経営対策部）

組織農政通信

日英包括的経済連携協定（日英EPA）について ～日EU・EPAを超えない枠組みづくり～

1. 日英EPA交渉にかかる経緯

令和元年9月、茂木外務大臣は、訪日中のトラス英国国際貿易大臣と会談し、英国のEU離脱後、日英間の新たな経済的パートナーシップの構築に迅速に取り組んでいくことで一致した。

令和2年6月9日、両大臣がテレビ会談を行い、交渉を立ち上げることにした。（交渉立ち上げ前日の6月8日に、自民党は「今後の日英交渉に関する政府への申し入れ」を決議。）

計7回の首席交渉官会合を経て、8月6～7日、両大臣は協定内容全24章中大半の分野で実質合意し、8月末までの大筋合意を目指すことで一致。その後、9月11日に大筋合意に至った。

今後10月中の日本での署名を行い、令和2年秋には国会承認を経て、令和3年1月1日協定発効という予定となっている。

2. 日英EPAの大筋合意の概要

（1）日本側の関税については、日EU・EPAの範囲内で合意した。

① 日EU・EPAで関税割当枠が設定されている25品目について、新たな英国枠を設けないこととした。（ソフト系チーズや一部の調製品について、日EU・EPAで設定された関税割当の未利用分が生じた場合に限り、当該未利用分の範囲内で、事後的に日EU・EPAの関税割当と同じ税率を適用する仕組みを設けるとして、全体の量を維持した。）

② 日EU・EPAでセーフガードが設定されている品目について、日EU・EPAの下で措置された内容と同じ内容のセーフガードを措置することとした。（数量セーフガードについては、英国とEUからの合

計輸入数量が、日EU・EPAと同じ発動基準数量に達した場合に、英国に対し発動するものとして、枠組みを維持した。）

③ その他の農林水産品も、日EU・EPAと同じ内容を維持する内容で合意した。（協定発効時から日英双方が相手国に対して日EU・EPAと同じ税率を適用。）

（2）英国側の関税については、牛肉、茶、水産物など主要な輸出関心品目について、関税撤廃を獲得した日EU・EPAの内容を維持して合意した。（協定発効時から日英双方が相手国に対して日EU・EPAと同じ税率を適用。）

3. 日英EPAの協定発効後の課題

予定通りに英国がEU離脱すると、令和3年1月1日に協定発効となる。農産物については、協定発効後5年後の再協議規定が盛り込まれており、5年後の状況についても注視していかなくてはならない。

さらに、ソフト系チーズや一部の調製品について、日EU・EPAで設定された関税割当の未利用分が生じた場合に限り、当該未利用分の範囲内で、事後的に日EU・EPAの関税割当と同じ税率を適用する仕組みを設けるとして英国枠は設けないことで合意しているが、必要に応じて本仕組みの運用改善について日英間で協議を行う、とされていることも注視すべきである。

今後の動向に注視していくとともに、すでに発効しているTPP11、日EU・EPA、TAGなどの大規模な経済連携協定（EPA）について、国内農業への影響等について情報収集し、適時情報提供に努めていくこととする。

（中央会 農業対策部）

「見守り協定」締結で自治体とタッグを

J A 青森と今別町は9月1日、「高齢者等地域見守りに関する協定」を締結した。J A 青森が自治体と見守り協定を結んだのは今回が初めて。これにより、J A の通常業務の範囲において今別町の高齢者等に異変等を発見した場合に、J A 青森と今別町町民福祉課が連携して早期に対応することが可能になった。

今別町ではこれまで「地域見守り隊」として町内会が中心となり見守り活動を続けてきたが、高齢者の増加に伴い、町職員だけでは十分に見守ることが難しくなっていた。遠方に住んでいるご家族から「高齢の両親の様子を町として見守ってほしい」という要望が町に寄せられることもあり、町としても様々な方法を検討・実践したが、コストの問題やサービスへの加入件数が伸び悩んだことから定着には至らなかった。

J A 青森では、「組合員ふれあい活動」の一環として広報誌の正組合員162戸への月1回の配付や金融移動店舗車「よりぞう号」の巡回を行っており、定期的に地域住民と接する機会がある。その機会を有効活用し、地域住民が安心して生活できる環境づくりを目指す。J A 青森雪田徹代表理事組合長は「この協定を通して地域的なつながりを持続していきたい。今後は他町村に関しても同様の取り組みができるよう、話し合いを進めていきたい」と意気込みを語った。



J A 青森雪田徹組合長（左）と中嶋久彰今別町長

J A 青森 自慢の味を東京で発信

東京都赤坂にある青森県東青地域のアンテナショップ「AoMoLink ～赤坂～あおもり地域ビジネス交流センター」で、J A 青森の野菜の特別販売が行われた。2016年3月30日にオープンした同店は、スタッフが定期的に青森に足を運んで見つけてきた選りすぐりの物産品や農産物が並び、特別販売は毎回、県内出身者にもそうでない方にもとても好評だという。

8月16日から23日までは青森市浪岡のオリジナル品種「バサラコーン」が店頭に並んだ。今年で3年目となる販売は、昨年の1.5倍の192本を仕入れたがすぐさま完売。ホームページやfacebookで告知するとすぐに予約が入るほど人気の商品として定着しており、来年は更に仕入れの数量を増やす見込みだ。



店頭入り口に設けられた特別販売用のコーナー

9月1日から7日までは「大玉トマト」24個、「ミニトマト」96パックを販売した。店長の井筒栄吉さんは「トマトの特別販売は今年で2年目で、昨年は買い付けたトマトの中からいくつか試食用に提供して味を確かめて購入していた。今年は新型コロナウイルスの影響で試食が提供できなかったため昨年よりも出足が悪かったが、購入したお客様は美味しいと言ってリピーターになってくれる方が非常に多い」と太鼓判を押す。



JA青森中央会
農業対策部 農業支援課
たけだ けんご さん
武田 健吾 さん

輝き

●プロフィール

令和2年4月から勤務 青森市出身 22歳

— 働くきっかけは？ —

祖父が農業に携わっており、農業に関わる仕事をしてみたいと考えていた。就職先を探していた際に親戚の農家から中央会を勧められた。

— 業務内容を教えて下さい。 —

①営農・経済担当常勤理事研修会運営、②営農担当部課長会議運営、③農業者支援四連担当部課長会議運営、④ブロック営農指導実践大会運営などの会議運営です。

— 働いた感想は？ —

会議の運営で多くの人や企画に関わる度に日々成長していると感じています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

会議の運営が主な担当なので、分からないことや知らないことについては確認を行い、次に活かしていくこと。

— 特技・趣味は？ —

ゲームと動画鑑賞。

— あなたが自慢できることは？ —

電話を取る速さには自信があります。

— 将来の夢は？ —

書類の書き方や言葉遣いを覚えてミスを減らし、日々の業務に努めていきたい。

七戸町産大豆100% みよこ豆腐

JAゆうき青森天間林営農センター加工施設では「みよこ豆腐」の製造を行っている。商品名「みよこ豆腐」の「みよこ」とは1891年に天間林村（現七戸町）に生まれ、辛く貧しかった明治末期を明るく生き抜いた、実在の人物であり、地元では「美人ではないけれど働き者の女性」として親しまれている。（諸説あり）



出来立ての「みよこ豆腐」と製造している
鳥谷部絵理さん（左）・花松久子さん

みよこ豆腐作りは稲作が盛んな地域で水田を大豆に転作して生産するようになり、地産地消を目的に始まった。使用している大豆は七戸町産100%。すべての工程を2名で1つ1つ丁寧に手作りしているため、限られた数量しか製造できない知る人ぞ知る限定品。食感は柔らかく、大豆の優しい味わいが特徴。煮崩れしにくく、これからの季節お鍋の具材にも最適だ。

製造者の花松久子さんと鳥谷部絵理さんは「皆さんに安全、安心でおいしい豆腐を食べてもらうため、余計な添加物を入れずに1つ1つ愛情込め作っている」と話す。

みよこ豆腐（木綿）は1丁134円（税込み）であぐりサービス㈱Aコープ天間林店で毎週火曜日・金曜日の昼頃から数量限定で販売中。

問い合わせ先：あぐりサービス㈱ Aコープ天間林店

電話：0176(68)3700、またはJAゆうき青森天間林営農センター販売課 0176(68)2006

記事提供：JAゆうき青森



みりよく発信

効率的かつ効果的に つがる市柏 古坂 朝和さん



リンゴの葉とり作業に入る古坂さん

「常に新しいことにチャレンジしたい」と話すのは、リンゴの新しい栽培方法「高密度栽培」に取り組んでいる、つがる市柏の古坂朝和さん（44）。効率的な栽培方法を模索しながら、高品質なリンゴ生産を目指している。

現在主流の丸葉栽培は隣り合う樹の間隔が広く、横に枝を伸ばして栽培する。一方の高密度栽培は樹と樹の間隔が狭く、面積10aあたり約300本の定植が可能。丸葉栽培の10～20倍、わい化栽培の2～3倍だ。県内でもまだ高密度栽培の園地は少なく、古坂さんも色々試しながら取り組んでいる。

高密度栽培に取り組んで2年目。今年10aの畑に昨年自家養成したフェザー苗木を定植した。「作業動線も良く、効率が良い。労力と時間の軽減に繋がっている」と手ごたえを感じている。来年も10aほど高密度栽培の面積を増やす予定だ。「味がしっかりのったおいしいリンゴを消費者に届けるため、高密度栽培を自分のものにしたい」と次年度のリンゴ栽培に意欲を見せた。

（日本農業新聞・青森県版9月10日掲載）

後編 記集

都道府県をまたいだ移動を極力控えるという県の自粛要請が出ている中、どうしても用事があり、函館に行ってきた。北海道新幹線に初めて乗車し、1時間（新幹線）+20分（在来線：函館ライナー）の所要時間は、短く感じた。

9月19日～22日の4連休は、湯の川温泉もホテルが満員でフリー客は泊まれなかった（主に北海道で実施している道民割キャンペーンを活用）そうだが、今日の宿泊客は2割程度。まだまだ、の様相だったが、青森県から2校の修学旅行生（五所川原市立三好小と今別町立今別小）がおり、やはり函館は人気なんだなあと感じた。

市内はどこに行ってもマスク人間、消毒対策と検温が徹底されており、函館山では、マスクを着用していないと夜景を見ることができない規制となっていた。

朝市、明治館、金森倉庫、五稜郭、函館奉行所、函館山夜景と定番コースを堪能したが、一番

良かったのがベイサイドにある「ラッキーピエロ」というハンバーガー屋さん。道内でも道南地区だけにしかなく、市内ではあっちこっちで見かける。マクドナルドがほとんど無い。一番人気の「チャイニーズチキンバーガー」（唐揚げが入っている）と「ラキポテ」（フライドポテト）は、お勧めだ。函館に行ったらぜひ食べてほしい。函館湾を見ながら食事ができるのでカップルが沢山いた。妻もいたので自分たちも熟年カップルだが、思わず若かりし頃に返った気分でハンバーガーを食いすぎて腹が痛くなった。（体は正直。暴飲暴食すべからず）



10年前だったら北海道米はあまりおいしいと思えなかったが、今回食べた「ふっくりんこ」は、ほんわかしてとても甘くおいしかった。青森の米も負けていられないと強く思った。（公）

ホームページアドレス

- J A 青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A 情報などをご覧いただけます。
- J A バンク青森 <http://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJ A バンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A 全農あおもり <http://www.am.zennoh.or.jp/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A 共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp>
J A 共済のご案内のほか、地域貢献活動の取り組みを紹介しております。

「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

役立つ、得する、
楽しい情報が満載

●購読のお申し込みは JA へ
購読料 1カ月 2,623円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<https://www.agrinews.co.jp>

知る、活かす、つなぐ～JAグループ情報共有運動



たいせつな人にのこしたい
知恵と思いと豊かな暮らし

12月号 第2 別冊付録

12月号 第1 別冊付録

1月号 第1 別冊付録

1月号 第2 別冊付録

ハッピー
マイライフ
家の光

健康へ 食すなりの
心と体の健康を 行動が支える
JAグループ 家の光協会

四季の気配をたのしむ
二十四節気手帖

JAグループのファミリー・マガジン
『家の光』12月号・1月号
購読申し込み受付中

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL. 03-3266-9039 <http://www.i-enohikari.net>

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

定価(税込)
●家計簿・別冊付録付き12月号 1,027円
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円 ●普通月号 629円



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし

何度でも
旅に出よう!

旅行代金 最大35%割引!

GoToトラベル キャンペーンで 旅をお得に楽しもう!

※地域共通クーポン券の取扱いについては9月上旬以降、開始の予定です。それまでは実質最大35%の割引となり、9月上旬以降は支援額と地域共通クーポン券合わせて最大半額相当の補助となります。

国内旅行を楽しんで、日本を元気に!

※写真はすべてイメージです

対象期間
2020年7月22日(水)～
2021年1月31日(日)(予定)まで

※支援金予算が上限に達し次期販売終了となります。予めご了承ください。

お申し込み
農協観光各支店または
WEBサイトに
<https://ntour.jp/Yado/>

※WEBサイトからの申し込みは8月上旬からご利用いただけます。

おもな宿泊対象商品の一例
農協観光 こたわりの宿・旅たち

パンフレット参照

GoToトラベルキャンペーンについて

新型コロナウイルスの影響により、甚大な被害を受けている観光業等を対象にした官民一体型の消費喚起キャンペーン「GoToトラベルキャンペーン」が実施されます。このキャンペーンは、旅行需要喚起と地域を活性化するための取り組みです。

キャンペーン期間内に旅行商品を購入した方は、**なんと旅行代金が最大35%割引に!**

1人1泊あたり上限14,000円・日帰り上限7,000円

※地域共通クーポン券の取扱いについては9月上旬以降、開始の予定です。それまでは実質最大35%の割引となり、9月上旬以降は支援額と地域共通クーポン券合わせて最大半額相当の補助となります。

お得に旅を楽しんで、日本を元気にしましょう!

専用の募集チラシをご用意しております。詳しくは農協観光青森支店まで

旅行企画・実施
お問い合わせ・
お申込み



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 農協観光青森支店
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
総合旅行業務取扱管理者：伊藤 亨・田川ますみ
TEL 017-729-8800
FAX 017-729-8803

お申込み・
お問い合わせ

青森県知事登録旅行業者代理業第28号
JA 十和田おいらせ旅行センター
☎0176-23-0374
総合旅行業務取扱管理者：桜田 康子
青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433
総合旅行業務取扱管理者：八重樫泰浩

青森県知事登録旅行業者代理業第15号
JA 津軽みらい旅行センター
※現在「休業中」です

作品紹介

●令和元年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



「はい、お食べ」

八戸市立明治中学校

2年 及川 那月

■青森県教育委員会教育長賞

（図画部門第三部）



■優秀賞（図画部門第三部）

「感謝をこめていただきます」

三沢市立第一中学校

1年 竹森 泰恵